

第2回地域連携協議会への参加

永池校長先生の挨拶の後、第一回地域連携協議会の記録をもとに、前回、各委員から出された気づきや要望について、学校としての考え方や取組の概要についての報告がなされました。前回、地域の方々から出された要望に対して、学校側は誠実に対応されており、前回の地域連携協議会を生かし、地域の方々の声を大切にした取組や地域と学校の共通理解を通した学校づくりの必要性を再認識しました。また、重点課題である子ども達のあいさつについて、児童アンケートをもとにした報告があり、学校と地域とが連携した日々のあいさつ指導について協議がなされました。その中で、学校だけではなく、地域における朝のあいさつ運動や交通指導、日々の社会体育も含め、以下のことが確認されたのは、子ども達のあいさつ充実に向けた貴重な共通理解の視点となりえたと感じます。

- ① あいさつだけではなくて、返事も兼ねて指導すること。
- ② 子どもをほめることは効果大きいこと。
- ③ 続けていくことが大切だということ（継続は力なり）
- ④ 形から入ることも必要なので、きちんと教えて指導していくことが必要であること。
- ⑤ いつでも・どこでも・誰にでも、時と場に応じたあいさつが必要であること。
- ⑥ 動機付けの質を見極めること。
- ⑦ あいさつの気持ちよさや心地よさ等の有用感をあいさつした子ども自身が感じ取ることが、内発的な動機付けへとつながり、生きて働くこと。

そのためには、まずまわりの大人が、あいさつの後の気持ちよさや心地よさを表情や態度、言葉で子ども達にしっかりと心で伝えていくモデルとなり、人と人とのつながりの温かさを感じとらせることが大切であること。

第一回目と比べると場の空気も自然体のなごやかなものとなり、情報交換・意見交換が進んだと思います。嬉野小学校の子どもを中心に据え、学校、地域を問わず、それぞれの立場で、嬉野の子どもたちのすこやかな成長を支える大人の日々の意識を高める協議会であったと感じました。

また、体育館や運動場等の学校施設の週利用計画、社会体育の年間活動計画、地域行事への参加促進等も確認され、有意義な時間となりました。次回は第3回目の地域連携協議会が予定されていますので、今回の協議を生かして、さらに伸展が図られるのではないかととても楽しみにしているところです。